

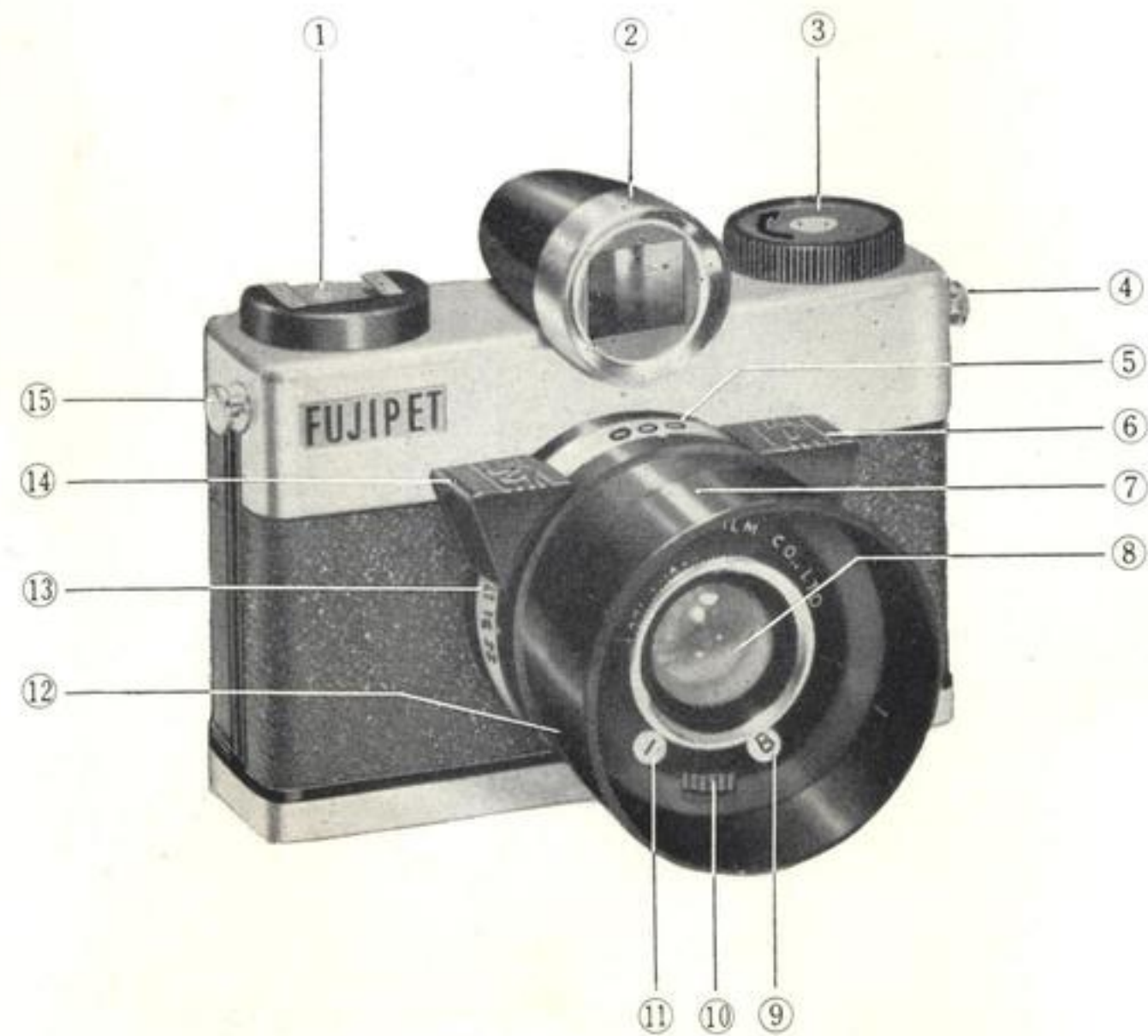


フジペット
やさしい
写し方教室

富士写真フイルム株式会社



フジペットの「ぶぶん」のなまえ



- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ① アクセサリー (フラッシュガン) シュー (等のさしこみ口) | ⑨ バルブのしるし |
| ② ファインダー | ⑩ B (バルブ) I (瞬間シャッター) 切りかえ 切換レバー |
| ③ 巻取ノブ (フィルムを巻くもの) | ⑪ インスタント (瞬間シャッター) の印 |
| ④ 下げ革止め | ⑫ シンクロプラグ (接点さしこみ口) |
| ⑤ 絞りマーク | ⑬ 絞り文字板 |
| ⑥ シャッターセットレバー | ⑭ シャッターリリースレバー |
| ⑦ レンズフード | ⑮ 下げ革止め |
| ⑧ レンズ | |

うつつ^{じゆん}準備

1 フィルムの買い方

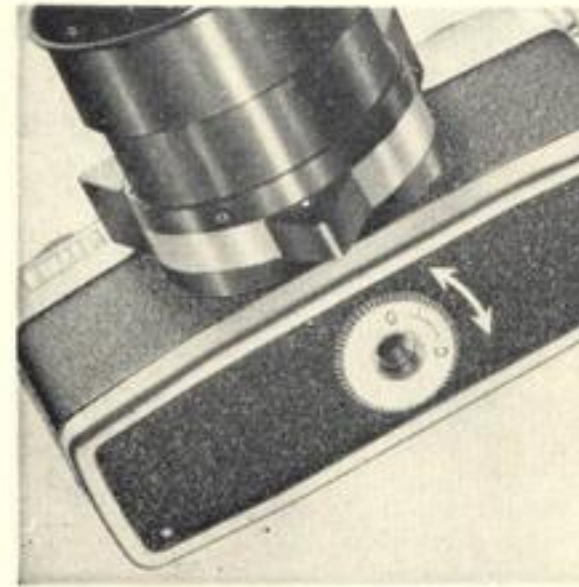
フジペットは、ブローニー サイズのフィルムを使います。



フィルムには、現在、ネオパンS、ネオパンSS、ネオパンSSSとフジカラーが写真材料店にあります。ふつう^{ひるま}昼間に写すときには、10月～3月のあいだはネオパンSSを、4月～9月のあいだはネオパンSを使いましょう。このように^{きせつ}季節によつて使うフィルムをきめておいてあとはその時の^{てんこう}天候によつて絞りをきめれば良いのです。フジペットは、こんなに使いやすいカメラですからフィルムの選び方は、ひじょうにかんたんなのです。フィルムは、みなさんのお近くの写真材料店へ行けば買えます。

2 フィルムの入れ方

フィルムの入れ方は、注意^{ちゆういぶか}深くていねいに日陰^{ひかげ}でやらなければなりません。不注意な入れ方をすると途中でフィルムがうまく進まず、撮影^{さつえい}ができなくなってしまうようなことがあります。写真で示すような方法でていねいに入れてください。



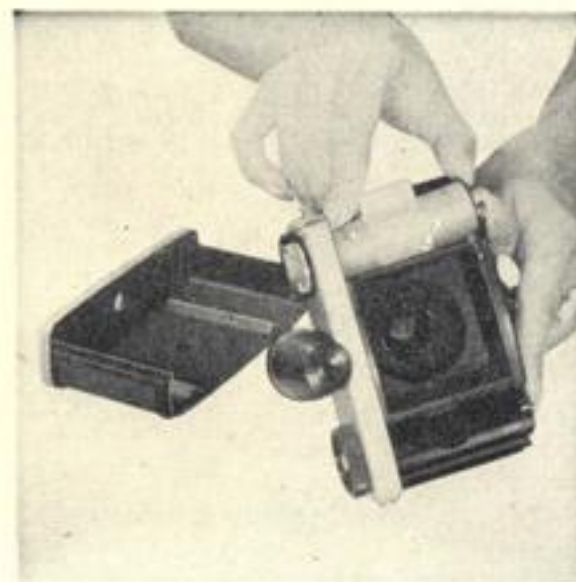
① まずカメラの裏^{うら}ぶたを開けます。開け方は、写真で見るように、裏ぶたの底のネジをゆるめます。



② ネジがゆるんだら裏ぶたをはずしますが^{みぞ}溝にそつて、写真の矢印の方向に開けます。



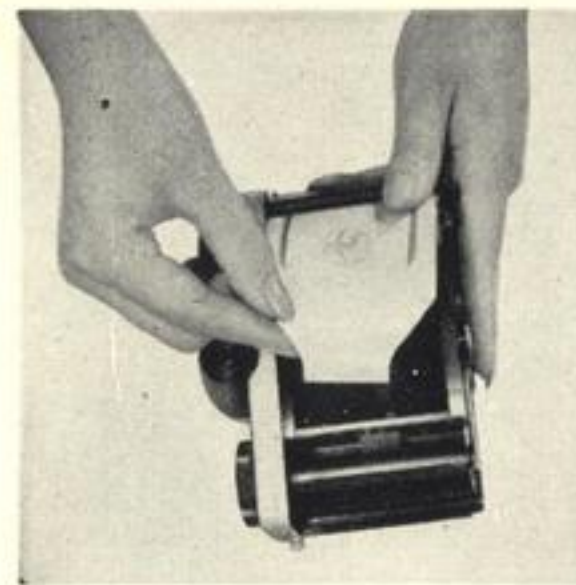
③ 溝みぞにそつて、まつすぐ引出して開けたら、裏ぶたをはずします。
無理なことをすると、溝をこわしますから注意しましょう。



④ ふたが開いたら、フィルムを入れます。
フィルムを入れる時には、木蔭こかげなどを利用してフィルムにじかに光が当たらないよう注意することがたいせつです。



⑤ フィルムをカメラに入れてからシール（フィルムの巻きをとめるために貼つてある紙の帯おび）を切ります。



⑥ リーダーペーパー（遮光紙しゃこうし）を引き出します。この時あまり強く引き出さないで静かに引き出さなければなりません。



⑦ その先端を巻き取り側のスプールの溝に正しく入れます。リーダーペーパーの先端は、溝に入るよう切り抜いてありますからそのままじょうずにさしこんでください。



⑧ まつすぐさしこんだら巻き取りノップをまわしてフィルムを少し巻いてみます。
このとき、フィルムがまつすぐ正しく巻かれているかどうか、よく見てください。



⑨ フィルムが、まつすぐ、まかれていればふたをします。

ふたをするときには、溝にそつて、注意深く矢印の方向にふたを押し、底のネジをとめます。



⑩ 裏うらぶたにある赤窓あかまどから、1の番号ばんごうが出るまで、よく見ながらまきとります。1枚とればかな必ずこの窓を見てフィルムをまきあげて下さい。1から12まで番号がじゅんぱん順番に出てきます。12で終了です。



⑪ フィルムも入れ終り、きつえいじゆんび撮影準備ができました。レンズのところの、レンズフードを引き出し準備かんりよう完了です。

どんなときでも、レンズフードを必ず使います。

うつし方

1 カメラのもち方

カメラのかまえ方（写すときのようす様子）は、どんな方法でもよいのですが、いずれにしても、しっかりと落おとさないように持って、シャッターを切ったときに（1ボタンを押して2を押すこと）カメラが動かないように注意しなければなりません。

シャッターを切った瞬間しゆんかんにカメラが動くと「カメラぶれ」といって、ピント（しやうてん焦点）のわるいぼやけた写真になってしまいます。

写真で見るように、ヒジをしつかり胸につけてかまえるのが正しい方法です。



正しいかまえ方



ヒジが開いていてわるいかまえ方

うつすときには写す人が太陽を背にしてカメラを向けます。

もし、太陽に向ってカメラを向けると太陽の光がレンズに入り込んでまばゆくてうまく写らないことになってしまいます。

暗いところでは、バルブ（Bというしるし、—シャッターボタンを押している間だけ、シャッターが開いていて、はなすとしまります。つまりじぶんの思う通りの露光ができるのです。）というシャッターを用います。

このときは、手に持ったまゝではどうしてもカメラがぶれてしまいますか

らカメラ用の三脚さんきやく（三本脚ましのカメラを保持するものでカメラ店にあります）を使ってカメラをしっかりと動かないように止めて写します。

もし三脚のないときには、てじかな机の上に置いて写すとか、そとでは、木の幹みきにカメラをしっかりと押しつけて写すとかします。

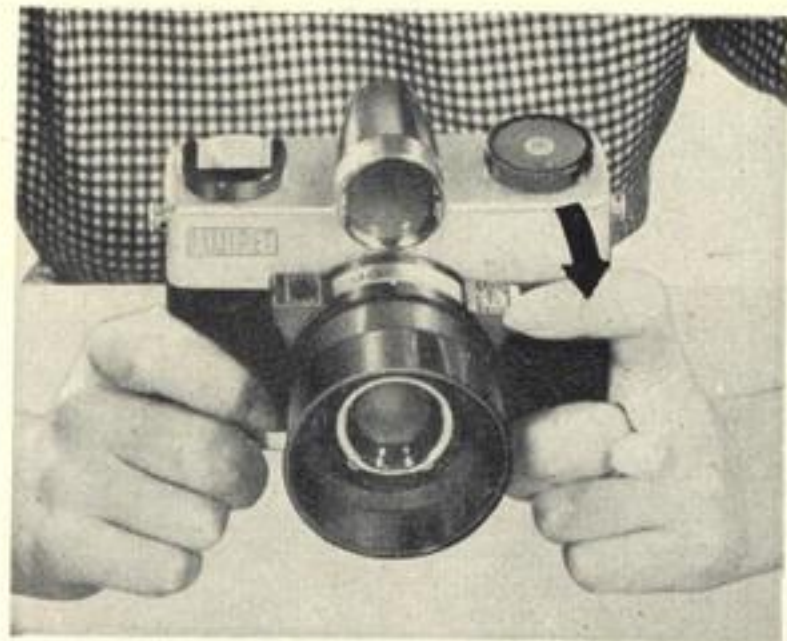
いずれにしてもシャッターを切っているあいだ、カメラが動かないようにすることがたいせつです。



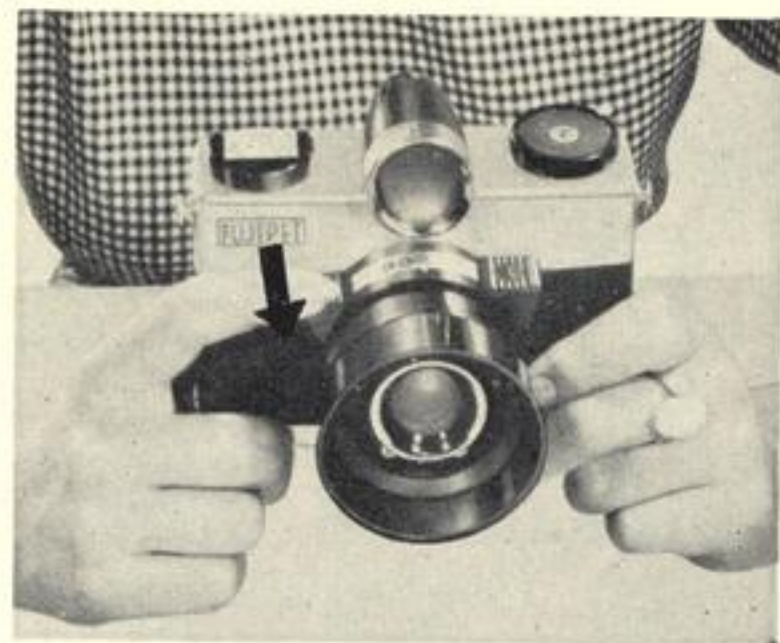
2 シャッターの切り方

カメラをいくら動かさないように持つていてもシャッターを切るときに乱暴らんぼうにしてはだめです。

しずかに、心をしずめて、シャッターボタンを押すことが、よい写真を作るのです。まずはじめに、①のところを止るまで押したら指をはなします。これでシャッターがセットできます。(シャッターが押せば切れる状態じょうたいになります)



10



つぎに、②のところをしずかに押せば、シャッターが切れます。

この②を押すときに、しずかに押すことがたいせつなのです。しずかに押すことがピントのよい美しい写真を作るコツなのです。

ファインダーも目をしっかり見開いてどれだけの範囲はんいが写るかよくみてください。そこで見えただけが美しく写るのです。

そうしないと、頭や足がちょん切れてしまって、思わぬ失敗しつぱいをしないともかぎりませんから。



正しい見方

11



わるい見方

3 動くもののうつし方

動くものを写すときは、動いているものといっしょにカメラを動かしては、なかなかよい瞬間しゆんかんに写すことはできません。

その上、シャッターを押した時には、写そうと思ったものがすでに通りすぎてしまっていたということになりかねません。

ですから、あらかじめ、動くものがくる場所を予測はしよ よそくして、カメラをそこに向けておき、そこに来た時にシャッターを押すのがもっともよいでしょう。

このとき、あまりあわててシャッターを不注意ふちゆういに強く押しますと、カメラぶれをしてしまいますから注意しましょう。

4 フィルムと絞しぼり

美しい写真を写すには、正しい露光ろこうがフィルムにあたえられなければなりません。それを調節ちようせつするのは、レンズの明るさ（しぼり）のやくめです。

（露光というのは、光がレンズをとおつて、フィルムにあたることをいうのです。フィルムにあたる光の量が多すぎるときは、フィルムはまつくろになつてしまいます。（露光過度ろこうかどという）光が少ないときにはうすくて写らないということになります。（露光不足ろこうふそくという））

フジペットの、レンズの明るさは、11で、焦点距離しやうてんきよりは70ミリです。

しぼりは、11、16、22とついています。

11から16へしぼるとレンズを通して入って来る光の量は半分にへります。更に16から22に絞ると又半分にへります。ですから11から22にしぼると $\frac{1}{4}$ の光の量になるのです。

ふつうの撮影のときには、季節によってネオパンS、ネオパンSSを使います。夕方の撮影とか暗いときの撮影には、ネオパンSSSスリーエスを使います。

ネオパンSは、ASA 50という感度（光に感じる力）をもっている使いやすいフィルムです。（ASA 50というのは、フィルムの持つている感度を示す数字です。）ちょうどいい感度ですから4月から9月までの光の強い季節に使います。

ネオパンSSというフィルムは、カメラマンみんなが使っている万能フィルム（何にでも使えるフィルム）でASA 100という高感度を持っている（ネオパンSの2倍の感度）使いやすいフィルムです。

お父さんもお兄さんも、みんなこのフィルムを使っているのです。

ネオパンSの2倍の感度を持つていますから、10月から3月までの光の弱いときに使います。

ネオパンSSSは、ネオパンSSの2倍の感度（ASA 200）を持っている超高感度フィルムですから夕方や暗いところでの撮影にその偉力を発揮します。

フジペットは、シャッター（I）が一定速度ですから、このように、フィルムをじょうずに使いわけましょう。

5 しぼ 絞りとお天気



フジペットではシャッター速度は、Iのところに合わせておけばいつも一定ですから（約 $1/50$ 秒）お天気と季節によつて絞りとフィルムをかえて撮影します。

ふつうの撮影には、4月～9月のあいだはネオパンSを、10月～3月のあいだはネオパンSSを使います。絞りはつぎの表のようにして下さい。どこか一カ所を合わせれば数字も記号もみんな一度に合うようになっています。

天候	快晴	晴	曇
絞り	22 ● ☀	16 ● ○	11 ○ ⊕

6 きょうり

フジペットは、定焦点カメラですから、2mから無限遠までは、どこでもピント（焦点）が正しく合います。つまりはっきり写ります。

ですから、撮影のときにいちいちピントを合わす必要はありません。

2mより近いきょうりの撮影では、ピントが合いませんからむだですからやめましょう。

7 フィルムの出し方

撮影が終って完全にフィルムを巻取ってしまったら、カメラからフィルムを取り出します。はじめと同じようにカメラの裏を開けてフィルムを出します。そのままですと、だめですからフィルムのうしろについているノリの付いたシールで図のようにフィルムをとめて下さい。



密着と引伸

フジペットは、6×6cm判（画面縦横が6cmの長さの四角に写ります）ですから、引伸しをしないでも密着で写真を楽しむことができます。

記念写真等をアルバムに整理するときでも密着のまま十分に観賞することができます。

密着で観賞できる6×6cm判は、てがるに、写真を楽しむことができます。6×6cm判より大きい写真が欲しい時は、引伸しをします。

引伸しは、引伸機という機械を使ってすきな大きさに写真を大きくすることができます。そしてじぶんのいると思うところだけが大きくなります。

引伸しをするには、しっかりしたネガをえらぶことがたいせつです。

しっかりしたネガとは、撮影のときのカメラぶれの無いピントのしつかりしたもので調子のよいネガ（美しいネガ）のことをいいます。

たと 例^{たと}えばカメラぶれ(動いてボヤケている)のあるフィルムを引伸しすると、そのぶれたものがより大きくなりますから見^{ぐる}苦しいものになってしまいます。

また、調子^{ちょうし}の悪いネガ(調子のわるいネガには多くの種類^{しゆるい}のものがあります)が撮影してできあがったネガフィルムが撮影したときの状態^{じようたい}と比べてみて、ひじょうに白と黒の差がはげしくなつてかたい感じ^{かん}のするものと、その反対にひじやうにやわらかくて、ねむい感じのするものがあります)から引伸すと、撮影したときとは、かけはなれた期待^{きたい}はずれの写真ができてしまいます。

美しい写真を作るには、美しいネガをえらび出すことがだいじです。

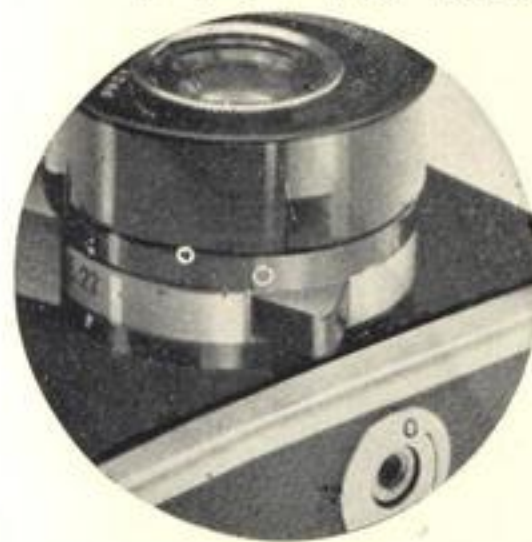
調子のよいネガがわからなければちかくの写真材料店で聞けばしんせつに教えてくれます。

シンクロでの写し方

いままでで、皆様^{みなさま}は、もう一人前のりっぱな写真がとれるようになりました。これからは、シンクロ(同調発光装置^{どうちようはつこうそうち}—シャッターを押すと同時に閃光電球^{せんこうでんきゆう}が発光して、夜間^{やかん}でも撮影できる装置)が閃光して、夜間でも撮影できる装置)写真術^{しやしんじゆつ}のお話しをしましょう。

シンクロは、夜間撮影等、暗いところでの撮影に必要なものです。

フジペットのシャッターには、シンクロ同調装置の



接点せつてんが内蔵ないざう（ビルトイン）されていますから、かんたんかんたんにシンクロしんくろをかつよう活用かつようすることができます。

お近くの写真材料店に行けばシンクロ同調装置を求めることができます。それを、フジペットに取りつけて、（アクセサリ—シューに差し込む）コードをフジペットの接点につなげばよいのです。

閃光電球は、市販しはんの有名ゆうめいメーカーの品を使うことがたいせつです。

写真材料店に行ってF級の閃光電球（フラッシュ電球）を求めてください。

シンクロ撮影のときの露光は、使用する電球しゆるいの種類、フィルムの種類、撮影距離きよりによってちがってきます。

これは、閃光電球ひようしに表示されている（電球のケースに書かれてあります）ガイドナンバーを使ってきめます。

ガイドナンバーとは、つぎの式で示されるものです。

ガイドナンバー = 撮影距離さつえいきより × F数値すうち（絞り）ですから、それぞれの電

球にガイドナンバーが示してありますから、そのガイドナンバーの数値を、撮影しようとする距離（写されるものとカメラとの距離）でわれば絞りが出てきます。

またフジペットを三脚などに固定して、フラッシュ電球を別の位置から発光して撮影することもできます。（オープンフラッシュという）

この場合は、つぎに説明するような方法でシャッターをバルブにして（Bに合わせる）あらかじめシャッターを開いておき、フラッシュ電球を発光させ、閃光が終ってからシャッターを閉じます。このときは、カメラが絶対ぜつたいに動かないよう注意深く固定することがたいせつです。



バルブ露光の利用法

フジペットは、I と B、というシャッターが付いています。

バルブ露光というのは、先にも説明しましたようにシャッターボタンを押している間だけシャッターが開いていて、はなすと閉じるということです。

ですから相当に長い露光ができますから、夜間撮影などでフラッシュがないときなどこのシャッターを使います。このときは、絶対に三脚が必要でカメラが完全に動かないよう固定することがたいせつです。

(三脚がないときは9頁の図のようにカメラが動かないよう固定します。)

フジペットでバルブシャッターを使うときには、B というところにシャッターを合わせます。

はじめに ① を充分押してから手をはなし、シャッターが切れるじゅんびをします。つぎに ② を押してシャッターを切ります。② を押せばシャッターが開きます。この ② を押したまゝにしていればそのあいだけシャッターが開いているのです。

決めただけの時間がきたなら手をはなします。そうするとシャッターが閉じます。

夜間の簡単な露光は、日本間で100W電球がついているようなところでは、だいたいネオパンSSで、11のところ^{てきせいろこう}に絞りを合わせて1秒位が適正露光です。

これとおなじ場合での撮影で、ネオパンSSS^{スリーエス}を使うと、フィルムの感度(光に感じる強さ弱さの度合)が高いので $1/2$ 秒位が適正露光となります。

ですから室内撮影とか、夜間撮影とか光の弱い暗いところでの撮影では、ネオパンSSS^{スリーエス}を使うのが便利^{べんり}です。

($1/2$ 秒とか、 $1/50$ 秒とかいうのは、シャッターの開いているあいの長さのことを言うのです。絞りとおなじに、光の量を調節する役です。

$1/2$ 秒とは1秒を基準^{きじゆん}にして、その半分のことをいうのです。

1秒といえ、時計をみながらやればわかりますが、大きくゆつくり深呼吸^{しんこ}吸したく^{きゆう}らいが、だいたい1秒ぐら^{れん}いですから、正しい露光をするために練習^{れん}しておくことも必要でしょう。)

アルバムの作り方

美しい写真を撮影してきても、そのままにしておくのは、無駄なことです。

そのときそのときに丁寧にアルバムに整理しましょう。

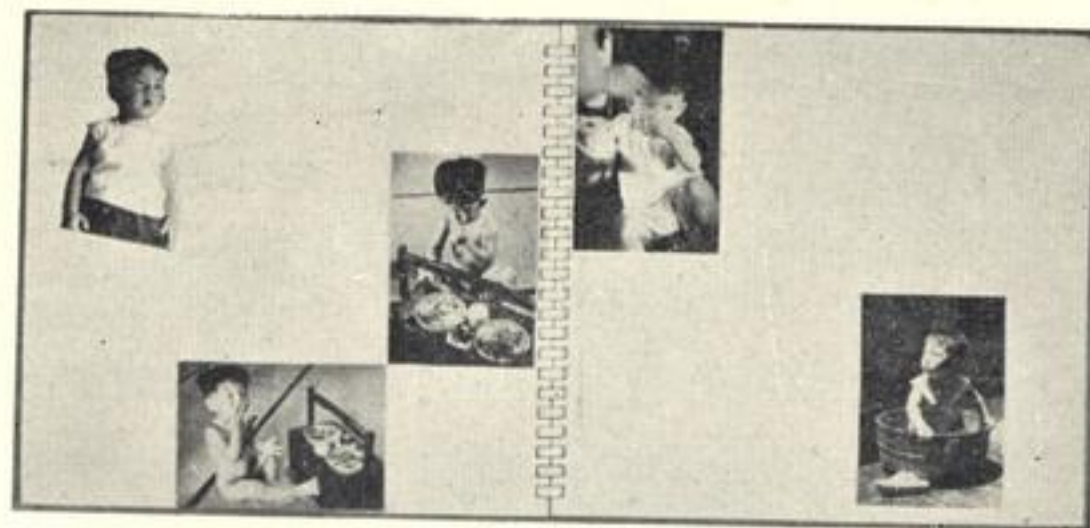
このアルバムは、貴重な、あなたの成長記録として残りますから楽しい思い出となります。

アルバムに整理するといっても、ただベタベタと貼りつけるだけでは、あまり

整理されていないアルバム



うまく整理されたアルバム



にも能^{のう}がなさすぎます。(それにしても整理していないよりはよいのですが)

アルバムのまとめ方を工夫^{くわふ}するだけでも、写真の楽しみは、いっそう深く広くなると思います。

人に見せてもはずかしくないような、美しいアルバムに整理仕上げるようにいつも心掛けましょう。

写真のことでわからないことがありましたら、下記のところにお問い合わせ下さい。

富士写真フイルム株式会社

東京出張所	東京都中央区銀座西2の3	京橋 56 8551(代表)
大阪出張所	大阪市東区備後町4の15	本町 26 0231・0891
名古屋出張所	名古屋市中区南伊勢町2の8	中 24 4447~9
福岡出張所	福岡市行町54	西 (2) 1126~7
札幌出張所	札幌市大通西5の11大五ビル内	札幌 (2) 2002・8783

やさしい露光表



天候	快晴	晴	曇
絞り	22 	16 	11 



シャッター..... I

フィルム 4月～9月 ネオパン S

10月～3月 ネオパンSS